

10月には網走管内において台風や低気圧に関する3度の気象速報が出され、海ではサケの定置網や漁業施設への被害が多く出たようです。関係者の方々には、お見舞いを申し上げます。10月26日には網走で初雪が観測されました。前日には札幌や釧路、帯広、室蘭でも観測され、いずれも例年より早い観測だそうです。オホーツク海のホタテガイ漁業もそろそろ終盤を迎えるころと思います。昨年12月の時化によるホタテガイへの影響も生産が進むにつれてはっきりしてきたようで、生産計画を再度下方修正した漁協もあるようです。生産量が少ない影響や海外からの引き合いが強いことから価格は昨年よりもさらに高くなっているようです。ちなみに北海道ぎょれんの集計によりますと原貝の平均価格は137円/kg(2012年)、182円/kg(2013年)、195円/kg(2014年)となっています。

▼北海道経済産業局がとりまとめた「目で見ると北海道貿易 2013」によりますと2012年に北海道から輸出された食料品は359億円で、そのうち「魚介類及び同調整品」が324億円で食料品全体の90%を占めています。品目別ではホタテ貝(冷凍)が最も多く92億円、続いて太平洋サケ(冷凍)53億円、なまこ(乾燥したものを除く)49億円、なまこ(乾燥したもの)48億円となっています。財務省の貿易統計から同様に集計しますと2013年のホタテ貝(冷凍)は236億円、2014年は292億円と急増しています。2014年に北海道内の税関から輸出されたホタテ貝(冷凍)は、中国(130億円)、米国(81億円)、ベトナム(65億円)、香港(9億円)、オランダ(7億円)の順となっています。輸出重量ではベトナムが米国より多く、第2位となっています。近年殻付きのまま加工用原貝としてベトナムや中国に輸出される量が増えているとのことです。中国は世界で最も多くのホタテガイを生産(162万トン、日本は51万トン FAO統計2014年)していますが、日本産ホタテガイへの需要も強いようです。

▼農林水産省は世界的な日本食への指示拡大などを背景に「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略(平成25年8月)」を策定し、現在5千億円前後で推移している農林水産物・食品の輸出額を2020年までに倍増させ1兆円にすることを目標にしています。水産物については世界的に需要が増大していること、日本産水産物の品質に対して世界から高い評価を得ていることなどを背景に2012年1,700億円だった輸出額を3,500億円にする目標を立てています。北海道庁でも「北海道食の輸出拡大戦略」を来年1月までに策定し、2014年に663億円だった道産食品の輸出額を2018年には1,000億円にすることを目指しています。現在でも輸出の約9割が水産物であり、中でもホタテガイ、サケ、鮮魚などは重要品目に位置づけられ、アジア圏や中東圏への主力輸出品として高い期待が寄せられています。水産試験場としても生産量の増大や輸出に係わる鮮度保持、衛生管理、高付加価値化などに協力していければと考えます。(網走水試 上田)